少彦名大神

このエリアは八万地獄と呼ばれる。地獄とは、日本語で“hell”の意味であり、人が住めない温泉を地上の地獄とみなし名づけられた。しかし、旧八万地獄は比較的不活発で地殻がマグマの上部で動かされ、これらの吹き出し口を作った。マグマは東側にゆっくりと流れ、より新しくより活発な地獄を形成しているが、西の古い地獄はほとんど活動の様子を見せない。徐々に、元は荒涼とした土地が回復している。ススキとアカマツがこの不毛の土地に戻りつつある。

近くにある石は、国造りの手助けをした神のひとりである少彦名を祀っている。この神は、温泉と農業、薬、海のかなたにある普遍の地である常世国の守護神である。雲仙の幸福は多くの温泉と関連しているため、少彦名と火山の恵みをたたえるために、毎年12月にここで祭りが行われる。